

論点整理(案)

国土幹線道路部会 論点整理（案）

第 48 回部会資料 (R3. 2. 5) を委員意見を踏まえて修正 (下線部)

1. 全国料金に関する論点

- ◆利用者にとって、わかりやすく、かつ経済活動を支え、既存ストックの有効活用を図るなどの今後の料金制度のあり方はどうあるべきか。

■料金割引について、より政策的な目的に沿ったものとするために、どのような見直しを実施すべきか。また、そもそもの目的の見直しについて、どのように考えるか。

(参考) 現行の割引の目的と課題 (例)

	目的	課題 (例)
平日朝夕割引	並行する一般道路における通勤時間帯の混雑緩和	割引時間帯における高速道路の渋滞
休日割引	観光需要を喚起し、地域活性化を図る	観光関連トリップ以外への適用も多い
大口・多頻度割引	主に業務目的で高速道路を利用する機会の多い車の負担を軽減	契約単位割引はコロナ影響等外的要因に左右され、契約者にとって不安定
深夜割引	一般道路の沿道環境を改善	適用を受けるためにトラックが SA/PA に滞留

■特に、深夜割引については、料金所や SA・PA での待機問題が生じているところ、速やかに問題を解消するためには、どのように見直すべきか。

■一般道の利用も含めて、料金割引の効果を把握するためには、どのようなデータを分析すべきか。

■大都市圏を含む全国的高速道路ネットワークにおいて、ようやく 5 車種区分が定着しつつあるところ、今後の車種区分については、どのような観点から、データの分析を行うべきか。

※原発避難者向けの無料措置について、目的に沿わない利用が確認されていることなどを踏まえ、制度趣旨に合った適切な利用となるよう見直しを進める。

2. 大都市圏料金に関する論点

- ◆大都市圏における高速道路料金の公平でシームレスかつ戦略的な料金体系はどうあるべきか。

■H27.7 の中間答申に沿って、首都圏においては H28.4 から新たな高速道路料金が導入された。その際、一部で激変緩和措置が導入され、完全な対距離制となっていない路線も存在しており、経路選択におけるゆがみが生じているが、今後、さらに公平でシームレスな料金体系の実現を目指すことでよろしいか。

なお、首都高速の料金体系について、「首都圏の新たな高速道路料金に関する具体骨子案」に沿って、速やかに見直しを進める。

■混雑状況に応じた料金について、大都市圏等における現在の渋滞状況を踏まえ、具体的にどのような路線・区間を対象として、導入を検討すべきか。その際、一般道への影響や利用者への周知について、どのような点に留意すべきか。

■一般道の利用も含めて、料金割引の効果を把握するためには、どのようなデータを分析すべきか。(再掲)

3. 更新事業に関する論点

- ◆今後増加する道路構造物の大規模更新・修繕について、社会・経済に与える影響を踏まえた更新事業はどうあるべきか。

■構造物の劣化に関する知見※が順次得られていく中で、維持更新を適切に行っていくために重視すべき事項は何か。

※知見の例

- ・構造物の性能が限度に近づき、補修しても回復しない、もしくは補修の回数が増える場合は、その機能が供用時のものに近づくよう、大規模更新・修繕を繰り返し実施する必要。
- ・大規模更新・修繕を実施した後も、構造物の状態を良好に保つためには、定期的な補修や附属物の更新が必要。
- ・省令点検に合わせた詳細調査の結果、新たに劣化の要因が明らかになったものについて、更新事業への追加を検討する必要。

■長期間の通行規制を伴う大規模更新・修繕工事を実施するにあたり、通行規制が社会・経済に与える影響を軽減するためのネットワーク機能強化について、どのように評価するか。

■蓄積されたメンテナンスデータを活用して、今後、どのような知見の獲得を図るべきか。

4. 高速道路の将来像（自動運転等）に関する論点

◆我が国の国土・経済社会の変化を踏まえた高速道路の将来展望はどうあるべきか。

■我が国の国土・経済社会の変化を踏まえた高速道路の将来展望はどうあるべきか。

- ・自動運転技術等の新しい技術革新なども踏まえ、今後の高速道路に求められる機能についてどのように考えるか。その際、高速道路と一般道、民間施設、車両等との適切な機能分担について、どのように考えるか。
- ・混雑解消のための圏央道の西側区間の大改造や核都市広域幹線道路の整備、物流等の結節点の確保など、首都圏をはじめとする大都市圏における高速道路ネットワークについて、今後の機能強化の方向性はどうあるべきか。

5. 高いサービス水準を維持するために必要なシステムに関する論点

◆安定的な維持管理・更新・機能強化等による高いサービス水準を維持するために必要なシステムのあり方はどうあるべきか。

■構造物の劣化対策としての維持更新について、

- ・その費用をどのような枠組みにより安定的に確保すべきか。
- ・必要となる負担を誰（利用者、国民など）に求めるべきか。
- ・永久有料制度を導入すべきとの意見を頂いているところ、料金徴収期限や債務の償還期間の扱いなどについて、現行の有料道路制度をどのように見直すべきか。

■国土強靱化のために新たに必要となる投資や、自動運転技術等の新しい技術に合わせた高速道路のサービス水準の更なる高度化など、高速道路の将来像の実現に向けて必要となる費用について、維持更新に必要な費用と同じように考えてよいか。

速やかに検討すべき課題 ～持続可能な国土幹線道路システムの構築に向けて～

国土幹線道路部会 「持続可能な国土幹線道路システムの構築に向けた取組」
中間とりまとめ（令和2年9月25日）より

(1)これまでの新たな料金体系の導入、更新事業の実施に対する評価

- ・新たな料金体系（H26 全国、H28 首都圏、H29 近畿圏）及び更新事業について、定量的な分析・評価を実施し、課題や新たな知見等を整理
- ・上記を踏まえ、今後の料金体系、更新事業のあり方について継続的に検討

(2)自動運転時代、ポストコロナ時代の高速道路の将来像の 具体化とロードマップの作成

- ・自動運転の普及を含む社会・生活様式の変化や自然災害の激甚化・頻発化等の環境変化に対応した道路の将来像について検討
- ・中長期的な高速道路の姿を具体化した上で、その将来像の実現に向けたロードマップを早急にとりまとめ

(3)社会・経済状況に応じた機動的な料金、利用者重視の料金の推進

- ・混雑の緩和等を図るため、社会・経済状況に応じて機動的な料金変更を可能とする仕組みを構築
- ・利用者重視の料金体系の推進に向けて、公平性の観点から対距離制を基本としつつ、交通渋滞の抑制に留意した上で、高速道路の交通分担率を引き上げるために必要な料金低減に向けた努力を継続

(4)(1)から(3)を踏まえた、安定的な維持管理・更新・機能強化等による 高いサービス水準を維持するために必要なシステムの在り方

- ・(1)から(3)における検討の結果を踏まえ、高いサービス水準を維持するために将来的に必要となる維持管理・更新・安全安心等のための機能強化等の取組方針と、そのために必要な制度を速やかに整理
- ・特に、高速道路は一般道路と比べて高いサービス水準を有することを踏まえ、償還満了後も料金を永続的に徴収することも含め、必要な財源を確保するための措置を検討し、具体化
- ・高速道路の無料区間についても、将来にわたり、高いサービス水準を維持し、必要に応じて機能強化を図りつつ、適切な維持管理・更新を実施するために必要な税負担を軽減する観点等から、地域の意見を聴取した上で、有料化について検討